



井上医院(外来診療・訪問診療・訪問看護)

【外来診療】
山間地に於いてもその時代に合った医療をお受け頂けるように、心電計、24時間心電計、24時間血圧計、呼吸機能検査装置、血圧脈波検査装置、X線検査装置、胃カメラ検査装置、腹部・心臓超音波検査装置などを装備し、高血圧症、糖尿病などの治療、合併症の早期発見に取り組んでおります。胃がんの早期発見を目的として胃カメラ検査には電子内視鏡を使用し、抵抗なくお受けいただくように経鼻内視鏡検査も施行可能です。

【訪問診療・訪問看護】
患者さまのお家が病室、地域全体が病院ととらえたコミュニティホスピタルの発想のもと、医師が定期的にご自宅を「訪問診察（回診）」に伺います。勿論、急に体調が変化された場合や患者さまのご希望がある場合には「往診」に伺います。

介護支援室

カーサの前に星の王子様が描かれた建物、【ステラ】をご存じでしょうか？
介護支援室は、ステラの中に事務所があり、5人のケアマネジャーが在籍しております。
ケアマネジャーの仕事は、ご利用者が安心して家で生活が出来ますように、それぞれのご意向をお聞きして、介護サービスを調整したり、困りごとを解決できるように一緒に考えさせて頂くことです。そのため、ご利用者様のご自宅へ訪問してお話を伺っています。
生活のご様子はお変わりないか、困り事は増えていないか、体調はお変わりないか、翌月の介護サービスの予定はどうなっているかなどと一緒に確認させて頂いています。
どなた様も住み慣れた我が家が一番好きです。できる限り長く、ご自分らしく、ご自分にあった、必要な介護サービスを利用しながら、在宅生活が継続できますように、支援させて頂いております。
時には理学療法士と一緒に家に訪問し、家の環境の評価や相談をしたり、入院された時には家で生活の様子を病院にお伝えしたり、退院時には安心して在宅ができるようにベットや手すりを整え、病院と連携を図っています。また、皆さんが使われた介護サービス費用を算定し、国保連に請求をするなど、仕事は多岐にわたります。
介護保険制度は3年ごとに変わってくるので、その為にも、日々、新しい情報を研修等で学んでいます。

デイケアセンターCasa & Vita

通所リハビリであるCasa&Vitaはご利用者様に対して、
①日常の継続した健康管理（医学的管理）
②リハビリそのものの提供（リハビリテーション）
③介護者の休息（レスパイト）
④閉じこもり対策（社会参加・対人交流）
を目的としてサービスを提供します。
そしてCasa&Vitaの理念である

全職種が協働して
ご利用者様の訴えを傾聴し
ご利用者様の日常生活向上を支援し
安らぎとぬくもりを感じていただく
全職種はお互いに
知識・技能・感性・知性を磨き合おう

を合言葉に、上記の①～④を少しでも良いものが提供できるよう日々努力して向上を目指しています。

【医療法人社団井上医院 全体図】

Casa & Vita 20年の歩み

2023年4月1日でカーサは20周年を迎えました。この20年間、その時々に合わせて施設の改修、設備やプログラムなどを変えながら現在に至りました。これまでの足跡をご覧ください。

2003年4月1日 カーサ開所

初日はご利用者様7名様からのスタート。
当時定員は一日40名様。



【カーサのある場所は元は水田でした】

【院長とマネージャー（若い!!）】



【上：工事前 下：工事後】



【左：ヴィータ工事中の様子（奥の建物はカーサ）】



【右：完成後コンサートを開催】

2016年 マシンルーム完成



【上：工事前 下：工事後】



2017年 厨房改修



【上：工事前 下：工事後】



2023年 4月1日



【写真は医院・支援室も含む】

セラピスト 8名
(PT4名・OT3名・ST1名)
看護師 4名
介護士 23名
調理師 6名
栄養士（管理） 3名
歯科衛生士 3名
各専門職 4名

院長よりお知らせ

2023年の当院の新しい体制ですが、長らく大学病院に勤務した三男が当地に帰任することとなりました。週に3日間は公立八鹿病院に勤務させて頂くことになりました。当院でも整形外科外来を開設する予定です。
内科疾患でご来院の患者さまの中には腰痛、膝関節痛、肩関節痛などの疼痛に悩んでおられる方が多くいらっしゃいます。多少なりともお役に立てるのではないかと考えています。
彼の自己紹介は次号に！



井上 紳司 医師
(前近畿大学医学部整形外科講師)

新入職員紹介



井上医院 看護師
安達 勝子



カーサ 言語聴覚士
本西 亜矢子



カーサ 栄養士
田和 結花

節子の部屋



なんて素敵な夜だろう 星はきらめく 瞳はうるむ ああ～あ～君とゆく♪♪
舟木一夫の歌が 頭をめぐる 今日このごろ

カーサは20歳を迎えます。
真理を求めてやまないカーサ故、たくさんの困難を乗り越ってくれたスタッフへ感謝という言葉以外見つかりません。
ところで私も20年歳を取ったということです。
最近、姉から「節ちゃん お母さんによく似てきたね」と言われます。
私自身鏡を見るとなるほど…それは良くない！！
頬の筋肉が下がり、目の下の脂肪がたまっている！
自分の手のひらで頬を持ち上げると少し以前の私らしくなる。
偶然、「90秒あご筋ほぐし」という本に出会い90秒だったらできるかも知れないとの勘違いから購入してみました。
ちと手遅れかな……？ 手遅れかも知れない！
皆さんも興味があれば必読です。
別の意味でマスクが外せなくなりそうです…。

(理事 井上 節子)

お知らせ

<ゴールデンウィークの休診日>

	4/29 (土)	4/30 (日)	5/1 (月)	5/2 (火)	5/3 (水)	5/4 (木)	5/5 (金)
午前診察	休診	休診	○	○	休診	休診	休診
午後診察	休診	休診	○	○	休診	休診	休診

医療法人社団 井上医院

〒667-0103兵庫県養父市浅野368-2
TEL: 079-664-0051
http://inoueclinic-yabu.or.jp



FELICE

2023. Vol1

井上医院の歩み

通所リハビリテーションを開設して20年を迎えました。
1991年（平成3年）に外来棟を新築してこちらも築32年目を迎えます。
当院の建築の歴史を少し振り返ってみます。
父・弘が隣の稲津から浅野に診療所を移したのが1952年（昭和27年）。父は1959年（昭和34年（伊勢湾台風年））に診療所を建て替えました。当時は入院病室もありスタッフの多くは住み込んでおられたようです。私がこの地に帰りました1984年（昭和59年）にはまだこの診療所で日々の医療を行っていました。（写真右上）



病室はこのような感じでしたが入院機能は随分前に廃止して、私が帰任したころには各室は改造されていました。（写真左）



それから約7年間古い医院で診療をして、一念発起して現在の外来棟を建築しました。
若気の至りもありましたが、およそ医療機関らしくない建築にしようと、長野県の建築家・故倉橋英太郎氏と日夜図面を前に協議を重ね1991年に竣工しました。
この建物は1993年に日本病院建築協会（現日本医療福祉建築協会）から病院建築賞（現医療福祉建築賞）を受賞しました。（写真下左）

約25年前から造園家の加藤氏とのコラボレーションが始まり、植栽が整い成長し、現在の外観になりました。（写真下右）



この車寄せを擁した建築様式が3年前に始まったコロナ禍で思わぬ力を発揮しました。
従来、インフルエンザなどの感染性疾患で来院される患者さまは職員通用口の近くのベンチでお待ちいただき院内感染対策にご協力を頂いておりました。
新型コロナウイルス感染症の感染力は想像をはるかに超え、当院でも2022年になり多くの患者さまが来院されることになり、院内感染対策を強化するために車寄せでのドライブスルー方式での診療に転換させて頂きました。午前午後共に一般診療の最後に来院頂き車寄せで診療をさせて頂くように致しました。患者さまのご協力に感謝いたします。
2022年には100名を超える新型コロナウイルス感染症患者さまの診断を致しましたが院内感染を生ずることなく1年を乗り越えました。
第8波は終わりを迎えつつあり、3月13日からマスク着用基準が緩和され、5月8日から感染症の区分が変わろうとしています。インフルエンザとはおよそ感染力や重症化率も異なりその対応の変化には私のような一般医は危惧を感じます。
当面万全の態勢を維持して発熱患者さまの診療に当たりたいと考えています。
(理事長 井上 正司)

特集：井上医院ヒストリー